

古文書修復実習

日時 2015年3月1日(日) 10:00-17:00 3月2日(月) 10:00-17:00

会場 神奈川大学横浜キャンパス 3号館地下2階 日本常民文化研究所古文書修復室

講師

田上 繁(神奈川大学日本常民文化研究所所長)

関口博巨(神奈川大学日本常民文化研究所客員研究員・跡見学園女子大学講師)

白水 智(神奈川大学日本常民文化研究所客員研究員・中央学院大学教授)

山口悟史(東京大学史料編纂所技術職員)

内容 基本的な古文書修復技術の説明及び実習 ①現状の記録・解体 ②修理(繕い・裏打ち)
③復原(化粧裁ち・製本) ④下張り文書の剝離の工程実習

全国の資料保存機関勤務者の 参加による修復実習報告

田上 繁

わが国では、高度経済成長期以来、急速な開発や、世代交代、家の建て替え、あるいは、不慮の災害などにより、歴史資料としての古文書、特に江戸時代以降の古文書が散逸、消失する事態に直面している。そうした危機的な状況に少しでも歯止めをかけ、重要な歴史資料を後世に残すためにも、また、歴史研究に活用するためにも古文書の修復を含めた歴史資料の保全態勢を構築する必要がある。

本講座は、こうした社会的な要請を受け、実習形式の「古文書修復実習」として毎年(年度によっては2回開催)実施しているものである。すでに今回で18回目を数え、これまで参加された受講者は約350名にも及ぶ。本講座の特徴としては、(1)参加定員20名の人数が示すように、少数の参加者が実際に道具を手にして修復技術を体験し習得できること、(2)全国から参加できるよう、日・月曜日の2日間の日程で開催すること、(3)単に技術習得を目的とするだけでなく、全国か



写真1 会場風景



写真2 記録/古文書の撮影方法の実習



写真 3 修理／裏打ち。和紙を裏から貼り補強



写真 4 修理／裏打ちした本紙を仮張りに張る



写真 5 修理／繕い。欠損部分を補修紙で裏から埋める



写真 6 復原／化粧断ち。余分な裏打ち和紙を裁断



写真 7 剝離／襖の下張り文書を剝離



写真 8 剝離／剝離した本紙を毛氈上で乾燥

また、この 3 工程に加え、近年、歴史資料としてその重要性がとくに指摘されている襖下張り文書の剝離技術の習得も数年前より取り入れている。

ら集う参加者同士の情報交換の場となるよう懇親会の場を設けること、などといった点が挙げられる。講座の内容は、古文書修復の基本である、記録・解体、修理（裏打ち）、復原の 3 工程を、受講者は各班に分かれてそれぞれの工程を受講することになる。

2014 年度の活動

今年度の第 18 回古文書修復実習は、2015 年 3 月 1 日（日）・2 日（月）の日程で行われた。北は北海道、南は広島県など全国から 23 名の方が受講された。近年の傾向としては、日常的に古文書の整理業務に携わっている資料館、博物館、文書館など資料保存機関からの参加者が多い。その参加者の意見や感想をいくつか紹介しておこう。

- ・外部へ発注している資料がどのように修復されているのかを知ることができ、今後取り扱いや、どの資料を修復に出すか、考えるうえで大切な情報をいただきました。
- ・できればひき続き、中級編、上級編などもあれば参加したいです。
- ・従来、私自身は必要があつて漢籍の修理等を自己流で行ってきたが、今回の古文書修復講座によって、その具体的方法を学ぶことができ有益であった。
- ・何より、同じ仕事をする様々な方々と出会うことができたのは、得がたい「宝」となり、今後の仕事・研究の大きな糧になるものです。
- ・ものすごく具体的に実務者として疑問に思う点や作業の意味などを教えていただき大変に価値ある研修でした。先生方の情熱や誠実さも伝わってきて、院生さん方のサポートも素晴らしく、多くを学ばせていただきました。